

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群①

おきのしま むなかたたいしやおきつみや 沖ノ島 (宗像大社沖津宮)

所在地/
宗像市
指定/
世界遺産・史跡



沖ノ島

東アジアで古代国家が次々と生まれたおよそ1650年前から1100年頃、沖ノ島では盛大なおまつりが行われました。海を越えて中国大陸や朝鮮半島の国ぐにへ向かう航海の無事と、そこでの交流が成功するように古代の人々は願ったのでしょう。国を挙げて行われたおまつりで神様に捧げられたものは、当時とても貴重なものでした。鏡

や指輪や馬具などは、古代東アジアのどの国と交流していたのかを具体的に教えてください。また時代とともにおまつりをする場所や捧げ物に変化していったことがわかります。

では、沖ノ島に古代のおまつりの跡が世界的に見ても珍しいほど良く残されて来たのはなぜでしょうか？宗像大社の沖津宮として特別な場所である沖ノ島では「島で見たり聞いたりしたことはいつてはいけない」「島のものは一木一草たりとも持ち出してはならない」など、古くからのしきたりが現在も残されています。沖ノ島を大切に思う人々によって、「神宿る島」は千数百年の時を超え、守られてきたのです。



古代のおまつりの移り変わり

【もっとくわしく調べたい】

- 福岡県世界遺産室 福岡市博多区東公園7-7 Tel 092-643-3162
- 宗像大社神宝館 宗像市田島2331 Tel 0942-62-1311
- 海の道むなかた館 宗像市深田588 Tel 0940-62-2600